

【第7回アフリカ開発会議サイドイベント】

2030年の自由で開かれたインド太平洋地域の グローバルロジスティクス・セミナー

国際協力機構（JICA）は、8月29日、JICA 横浜にて、インド太平洋地域における物流をテーマに、2030年の自由で開かれたインド太平洋地域のグローバルロジスティクス・セミナーを開催しました。国際機関、民間企業、大学など各界から100名を超える参加がありました。

イベントでは、ケニア港湾公社のマンドゥク総裁、マダガスカルのトアマシナ自治港アヴェラン総裁及びモザンビーク運輸通信省物流・民間投資局シトエ局長をパネリストとして迎え、インド太平洋地域における将来の物流インフラ整備について議論を行いました。

最初に、東京大学 柴崎隆一准教授他から、シミュレーションモデルを用いて推計した将来の物流状況にかかるJICAのプロジェクト研究の成果を発表し、来場者との質疑を通して意見交換を行いました。

後半のパネルディスカッションでは、ケニア、マダガスカル及びモザンビークの港湾関係者を含む5名をパネリストとして迎え、アフリカを中心としたインド太平洋地域における将来の物流インフラの動向や課題等について、幅広い議論を行いました。パネリストからは、将来の望ましい開発シナリオや各国の港湾の連携の在り方、貿易円滑化による陸上輸送コストの削減効果等について、各国の状況を踏まえた意見がありました。

また、阪神国際港湾株式会社の篠原理事からは、内陸国の荷主等が港湾利用時に有効な最新の情報技術の活用可能性について意見が示されました。さらに、東京工業大学の花岡伸也教授からは、アフリカ地域全体の物流状況の将来予測を包括的に行った研究手法について、その意義を高く評価するコメントがありました。

JICAは、本セミナーを通じて得られた意見等を踏まえて、プロジェクト研究の最終化に向けて取り組む予定です。

■本イベントの主な登壇者

【開会挨拶】

-安達一 JICA 社会基盤・平和構築部長

【発表者】

-大谷直輝 JICA 社会基盤・平和構築部 社会基盤・平和構築部運輸交通・情報

通信グループ第二チーム

- 小野寺仁 パシフィックコンサルタンツ株式会社グローバル事業本部開発プロジェクト部防災・港湾室長
- 柴崎隆一 東京大学准教授

【パネリスト】

- ダニエル・マンドゥク ケニア共和国ケニア港湾公社総裁
- クリスチャン・エディ・アヴェラン マダガスカル共和国トアマシナ自治港総裁
- アンブロシオ・アドルフォ・シトエ モザンビーク共和国運輸通信省物流・民間投資局長
- 花岡伸也 東京工業大学教授
- 篠原正治 国際港湾協会アジア地域（1）副会長（阪神国際港湾（株）理事）

【モデレーター】

- 古市正彦 JICA 技術アドバイザー

【閉会挨拶】

- 鈴木一巳 一般社団法人日本貿易会政策業務第二グループ長（貿易・情報システム担当）

■写真



セミナー会場の様子



開会挨拶（安達 JICA 社会基盤・平和構築部長）



パネルディスカッションの様子①



パネルディスカッションの様子②（右端から、マドゥック ケニア港湾公社総裁、アヴェラン トアマシナ自治港総裁、シトエ モザンビーク政府運輸通信省物流・民間投資局長、花岡 東京工業大学教授）

■関連する SDGs ゴール :

